

日本社会の民主的転換を求めて 大学人は訴える

京都の学者・研究者
日本共産党後援会
(京都学研会)

もくじ

ご挨拶

はじめませんか、政治のこと

安倍軍拡の暴走を止めよう！

選挙の年、一大争点としての憲法問題

多様な学生と教職員協働で、もう一つの大学グランド・デザインを

「原発稼働ゼロへ」

高学費で学生生活は限界、安倍政権を転換して大学生活を変えたい

大学の中での対話を通じた粘り強いとりくみを続ける

安倍内閣の大学破壊を許さない

北東アジアの非核化と憲法9条を守り抜くために

社会保障破壊を止め、

誰もが「健康で文化的な最低限度の生活」を享受できる政治を

政治を国民の手に

芦田 文夫 · · 2

あかたちかこ · · 4

池内 了 · · 5

奥野 恒久 · · 6

瀧本 美子 · · 7

竹本 修三 · · 9

布藤 和生 · · 10

辻谷本 圭祐 · · 11

丹羽 徹 · · 9

望田 幸男 · · 13

倉林 明子 · · 14

たつみコータロー · · 15

「原発稼働ゼロへ」

竹本 修三

(京都大学名誉教授、

原発ゼロをめざす城陽の会代表、
大飯原発差止京都訴訟原告団長)



私は1942年5月に埼玉県秩父市で生まれ、1961年3月に埼玉県立熊谷高校を卒業するまで、山に囲まれた秩父に住んでいました。1961年4月に京大理学部に入学しましたが、南以外の三方が山に囲まれている京都は安心して日々を過ごせました。1965年3月に理学部地球物理学を卒業すると、すぐに宇治にある京大防災研究所に入り、伸縮計や傾斜計を用いた地震前後の地殻変動の研究に従事しました。1965年は、日本の地震予知研究計画が発足した年です。この計画のよりどころの一つが、1943年の鳥取地震（M 7.2）の際に、京大が震央から約 60 km 離れた兵庫県・生野鉱山でやつていた傾斜計観測で、地震の約 6 時間前から 0.1 秒角に達する大きな傾斜変化を記録したとい

う例です。木の棒がボキと折れる前にミシミシと音がするよう、大地震の前には前兆的ひずみ変化が捉えられるだろうと考えられていました。しかし、地震予知計画が始まつてから、観測計器の精度向上は進んでも、有意な地震の前兆的ひずみ変化は検出されませんでした。これは、観測計器が置かれている場所が、まだ震源領域から遠いためだと考えておりました。ところが、1995年1月17日に兵庫県南部地震（M 7.3）が起きました。この際に、震源断層のほぼ真上にある神戸市・六甲高雄観測室で京大がやつていたレーザー伸縮計による高精度地殻変動の観測記録を調べると、前兆的ひずみ変化はまったく見られませんでした。

2011年3月11日には東北地方太平洋沖地震（M 9.0）が起こり、福島第一原発は放射能漏れの重大事故を引き起こしました。地震大国ニッポンにおいて、いつ、どこで、次の大震が起ころかは、全くわかりません。福島第一原発だけでなく、すべての原発が同じような事故を起こす危険性をもっています。原発の放射性廃棄物の処分費用まで含めれば、原子力発電は非常に高くつきます。安倍首相がこれを承知の上で、原発を止めようとしないのは、濃縮ウランやプルトニウムを核兵器の原材料として、手元に残しておきたいという考えがあるのかも知れません。しかし、戦争抑止力としては、原発を残すより、憲法九条をしつかり守った方が、効果的だと思います。